

目的 ヒトは、睡眠時、頭部を支持し安定した姿勢を保つ為に枕を使用している。古来より現代まで形態の異なる様々な枕が使用されてきた。今回は、日本と中国における枕の形態と推移について日本では江戸時代末期まで使用されていた枕、中国では清朝末期まで使用されていた枕をとりあげて歴史的な調査・研究をおこない考察を加えた。

方法 日本の枕の歴史的な調査・研究は東洋文庫、国立民族博物館、大阪府立中之島図書館、大阪信愛女学院付属図書館等の文献によりおこなった。さらに富士ベッド工業株式会社所蔵の資料の閲覧と提供をうけた。中国の枕の調査・研究は半坡遺址博物館、河南省歴史博物館、陝西省博物館、上海博物館、北京故宮博物院の文献および資料によりおこなった。調査・研究は1985—1990年にかけておこなった。

結果 日本の枕が寝具として使用されるようになったのは、飛鳥時代であり奈良時代の初期に編纂された古事記には、麻久良という文字がみられる。さらに、万葉集の中にも麻久良を詠んだ歌がみられる。枕の材質は、黄楊や杉や桑等で作られた木枕であった。そのほかに柔軟な材質を利用したものに菅、茅、藎等の草枕がみられる。平安時代になると枕から変化したものに括り枕がある。木枕は形態を変えて箱枕になってきた。江戸時代には男女共に大きな髪形が流行し枕も高枕が使用されるようになった。中国の枕は、原始社会において枕らしき石を見ることができると秦代(前221—207年)には、琥珀や水晶や翡翠や角でつくられた枕が使用されているのがみられる。同じ時期に黄楊や竹や藤の枕も使用されている。北宋時代(960—1126年)には陶磁器の枕もみられる。